

平成29年7月19日

平成29年度病害虫発生予察特殊報（第1号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：ミツユビナミハダニ *Tetranychus evansi* Baker & Pritchard
2. 作物名：ミニトマト
3. 発生地域：日高郡日高町
4. 発生確認の経過

平成29年6月中旬に、当病害虫防除所が日高町の露地栽培ミニトマトにおいて病害虫発生状況を調査していたところ、下葉に白化症状が発生しているのを発見した(写真1)。葉裏には橙色のハダニが高密度に生息しており(写真2)、これを農林水産省神戸植物防疫所に同定依頼した結果、ミツユビナミハダニであることが判明した。生産者の育苗施設内にはナス科雑草(イヌホオズキ類の1種)が散見され、本種の生息が観察されたことから、これが発生源と推察される。なお、当該育苗施設の周辺では本種の生息は認められなかった。また、近隣の露地栽培ミニトマト10ほ場を調査したが、本種の発生は確認されていない。

5. 分布

本種は、南アメリカ起源と考えられ、1980年代中頃まではインド洋上の島々、南北アメリカ、プエルトリコ、ジンバブエに分布が限られていた。その後、アフリカ、ヨーロッパ、アジアに急速に分布を拡大した。我が国では2001年に大阪府と京都府のイヌホオズキで初めて発見された。以降、兵庫県、東京都、鹿児島県、福岡県、沖縄県、長崎県、高知県、奈良県、群馬県で発生が報告されている。

6. 形態、

雌成虫は体長0.60mm程度で体色はくすんだ淡橙色～濃橙色(写真3)、雄成虫は体長0.47mm程度で乳白色～淡橙色、第3静止期の若虫は緑色である。多数の個体が集合している状態を肉眼で観察すると、一見カンザワハダニのように見える。

7. 発生生態と被害

- 1) 我が国で本種の発生が確認されている植物は、ナス、トマト、ミニトマト、ピーマン、トウガラシ、パプリカ、ジャガイモ、ホオズキ、イヌホオズキ、ワルナスビ、テリミノイヌホオズキであり、ナス科に限られる。
- 2) 本種は主に葉裏に生息し、発生初期には葉表に小さい白斑が発生する(写真4)。多発すると葉が著しく白化もしくは黄化し、枯死に至る。
- 3) 本種は増殖率が極めて高いことから、適切な防除を行わなかった場合は急速に被

害が拡大する恐れがある。

8. 防除対策

- 1) 本種は気門封鎖剤以外の各種殺ダニ剤に対する感受性が高く、一般的な殺ダニ剤散布による防除は容易と考えられる。
- 2) 対象作物においてハダニ類に適用がある殺ダニ剤を散布する。農薬使用にあたってはラベルをよく読み、登録内容をよく確認してから使用する。
- 3) ハダニ類に適用のある天敵製剤（チリカブリダニ、ミヤコカブリダニ）は、本種に対する防除効果が期待できない。
- 4) ほ場周辺のイヌホオズキ、ワルナスビなどナス科雑草は本種の発生源となるので除草に努める。ただし、既に雑草で発生がみられる場合は、除草すると本種のほ場への移動を促すことになるので、除草後は作物での発生に注意する。



写真1 ミニトマトの被害葉



写真2 橙色のハダニが高密度に生息



写真4 葉表に発生した小さい白斑



写真3 ミツユビナミハダニ雌成虫

和歌山県農作物病害虫防除所
担当：井口
電話：0736(64)2300